

## — 五歳児の記録より —

### 運動会についての問題点

堀合文子・磯部景子

二学期になってからの記録のうち運動会とオリンピックと動物園に入る前までを整理しているうちにいろいろと問題が出てきましたので、その間のことと堀合先生にお話ししていただきました。

まず運動会に関する部分では、次のような疑問が出てきました。

運動会の練習をする期間は、ある時間になると、毎日全員集まって運動会の練習が始まること。

クラス中の子どもあるいは幼稚園全体の子どもがいっしょに行動するためには、普段ならしてもいいこと、たとえば子ども同士話ししながら何かしたり、体を動かしながら何かすることなどができなくなり、子どもたちはたくさん制限をうけること。

リレーをするときは三列、遊戯をするときは二列、音楽行進をするときは四列に隊列をくむこと。はじめ先生が子どもたちの手をとつてひとりひとりの子どもを指導されると、二回か三回目には子どもたちはできるよう

なるが、隊列をくむことが必要かどうかということ、隊列をくむことに関連して縦横をきれいに並ぶということ。

遊戯の内容について、運動会では三歳児から五歳児までの子どもが同じ遊戯をしているが、普段の音楽リズムのときは子どもたちは、ひとりひとり自分で考えて表現していること。

運動会がおわって運動会の絵をかくこと。これらに関して、堀合先生におたずねしました。

運動会はどういう内容をどうやり方で行なつたらよいのだろうか。

磯部「二学期は九月十四日からの記録があります。運動会は十月四日(注)でしたが、運動

会までの約二十日間の記録をみますと、

九時半から十時頃からみんなで集まって運動会の練習をしていますね」

堀合「時間がたいていきまつていて、子どもたちは集められるわけです。だから子どもたちは何をしていても自分たちの楽し

みを途中で切られてしまいます。そうして約一時間くらいみんなで遊戯をします。五歳児のクラスになると、その他につなひきをしたり、かけっこ練習をして、ほとんど午前中を運動会の練習です。

ごします。運動会が終わるまで毎日そういう生活が繰り返されます。ですから子どもたちが自由に遊ぶのは午後くらいです。三歳や四歳児のクラスのときにはあります。問題に感じるのは、遊戯をするとあとは遊べるし、午後だけ練習しても間に合いますが五歳児になると種目が多いのです」

機部「リレーをするときは三列、遊戯をするときは二列、音楽行進をするときは四列に隊列(注2)をくむということ、それに関連して縦横を碁盤の目のように並ぶということは普段の体操のときでしたらその必要がないわけですね。運動会だからきちんどしなければならないのですか」

場合「たとえば運動会でリレーをする場合、縦も横もとおらないと組がわからなくな

ります。(注4)普段子どもたちが庭でしている

リレーだといつ始まったのか、いつ終わったのか、しゃつちゅう繰り返して走っています。距離にしても、繰り返して走っているうちに縮まっています。すると出発点が変わったりします。ところが運動会だとそういうわけにいかないです。運動会という枠があつてその中に入れようとするから問題が出てきます。あの年齢の子どもには縦横にすじをつけて並ぶということは必要を感じないでしょう。おとなが必要でもつてしているのです。指導のあり方からいえば、五歳の子どもも、また、小学校の一年生や二年生の子どももそうですが、自分でやりなさいというだけではできなくて、三歳の子

どもを指導するのと同じように手をかけて、子どもたちが納得できるように指導すれば、子どもたちは少しずつ、高度なことがらを習得します」

機部「普段、子どもたちがリレーをしているときは、今先生がおっしゃったようなります。普段子どもたちが庭でしている

リレーをする。そして運動会が終わって子どもたちが普段リレーをしているもとを考えると、それは、やはり運動会からきています。大きい組の人が運動会でリレーをする。そして運動会が終わっても普段でもしている。それを小さい組の人があみて小さい組の人もリレーをするというように、リレーの、そのもとをさかのばれば、おとなが与えています。そこで計画ということが出てきて、そこに、いろいろと問題があります。リレー 자체がいけないのでではなくて、運動会という枠に入れようとするときに問題が出てきます」

場合「そうです。しかし、リレーを例にするときも、おとなが普段リレーをしているものとを考えると、それは、やはり運動会からきています。大きな組の人が運動会でリレーをする。そして運動会が終わっても普段でもしている。それを小さい組の人があみて小さい組の人もリレーをするというように、リレーの、そのもとをさかのばれば、おとなが与えています。そこで計画ということが出てきて、そこに、いろいろと問題があります。リレー 자체がいけないのでではなくて、運動会という枠に入れようとするときに問題が出てきます」

ね」

を考えることが大切ですね。一律のルーチンですることに問題が出てきますね」

磯部「遊戯の内容について、普段保育室で子どもたちがレコードをかけて、いろいろと表現しているときや、遊戯室で音楽りズムの時に表現しているときは、子どもたちは、ひとりひとり、自分で考えて表現していますが、運動会の遊戯の場合は

『きゅうびいさんの遊戯』をするとか『動物の行進』をして、みんなで同じ型をおぼえるのですね」

堀合「運動会の遊戯をするところの記録をみると、最初、私がずいぶんあせっています。大きい組だから時間をかけてします。おぼえられるということ、みんなでしなければならないということやこういうことを教えるのは心の底では疑問に思っているということ、このふたつのことから短期間でやってしまおうという気持があつたことを思い出しました。しかし、実際にやってみると、こちらの計画どおり、短期間にさつととはいかなく

て、こちらのあせりがでています。子どもたちは入園当初からいろいろと考えて表現していますので、運動会の遊戯のときでも、先生が何かいえば子どもたちは考えようとしています。たとえば『馬になりましょう』というと、子どもたちは馬を自由に表現しようとしています。しかし、運動会の遊戯の馬はあらかじめまつているわけですから、子どもの活動をとりあげると、こちらの計画がつぶれます。計画をすすめれば子どもたちの創造性をつぶしてしまいます。苦しいです。実際にやり始めるまでは、こちらは運動会だからという意識があります。

しかしやり始めて子どもたちの反応を見ると、ああ、やっぱりだめだつたなって思います。運動会をしなければならないという意識を強く持っていても子どもたちの反応をみると、こういうやり方ではどうかと思います」

磯部「普段、新しい歌はどういうふうに指導されるのですか。運動会の場合、新し

い歌は先生が黒板に歌詞を書いて、先生はうたいながらピアノをひいて、子どもたちといっしょにうたうという形で入っていらっしゃいましたが」

堀合「歌の指導はこの年齢の人にとってはずかしいのです。幼稚園では自分の知っている歌を音程に合わせて声を出して楽しもうたうという、楽しくの方が大切です。いい声を出して、みんないつしょにうたうということは、幼稚園ではそれほど要求しないのです。だからテレビのコマーシャルでも内容が非常にわるいといふものでなければ、こちらもいっしょになつてうたいます。子どもの発達状態になつてうたいます。からみると、じつとしてうたうよりも体を動かしてうたつた方がいい年齢ですから、動きをたくさんして歌はつけたくなりに考えていいでしょう。子どもたちの中から歌が出てくれば、なおいいのです。歌の指導はほとんどごきが全部で、うごきを主体にして、それから自然にうたをおぼえるということになります

す。歌を指導するとき新しい歌をぱつと

出すということはありません。遊戯室で

音楽リズムをするときに曲をきかせてお

くとか、普段子どもたちが遊んでいると  
きに、機会をとらえて先生がうたってみ

るとか、そういうことが何日間かあっ  
て、音楽がわかつて、それから歌に入り

ますね。だから運動会のときのように歌

詞を黒板にかいたり、口づたえで教える

ものではないのです。それを運動会の場

合、短期間養成をしたわけです。五歳の

あの時期で字も読めるということで、こ

なしてもらえるだろうという意図が少し

あって黒板に歌詞を書いたのですが、い

くら字が読めるとしてもいい方法ではあ

りません。さきほど歌の指導ということ

をお話しましたが、実際には歌をほと

んど教えていません。だからといって、  
うたっていないわけではないのです」

「運動会の枠のことですが、普段幼稚園

でやつていらつしやるのと同じようなや  
り方で運動会をすることはできないので

すか」

壇合 「でくるんですよ。普段子どもたちが自

由に表現していることを運動会でするの

が理想だと思います。ところが運動会は

やっている自分も楽しむし、まわりから

もみてもらうという両方の条件がありま

す。みてもらうということを考えるとみ

ためがきれいということが加わってきま

す。みためがきれいということが濃厚に

でて、普段するのとちがつて形をつくっ

てやるわけです。普段やっているのをそ

のまま運動会ですると、みている人にわ

からないわけですね。それで普段と同じ

ようにするときは、相当解説をつけま

す」

壇合 「運動会の大きさについてはどうです  
(注8)」

「幼稚園だけでする運動会と小学校とい  
つしょにする運動会があります。幼稚園

だけでする場合は普段していることをい  
たします。小学校といつしょにする場合  
は小学校のプログラムのひとつになりま  
せんね」

すね。初めのうちは普段していることを

したこともありましたが、しかしみばえ  
がしないというようなことから、みんな

がそろって同じことをすることになった  
のです」

壇合 「運動会を現在行なわれている形でしな  
ければならないでしょか」

壇合 「現在行なわれているようによく思  
います。運動会だけではなくく

て、行事というものを大きく見る必要が  
あるかどうか」ということが問題ですね。

運動会ということになると日本の学校制

度の上に立つて考えなくてはならないわ  
けです。学校でしたら日常行なわれてい

る体育面を披露することから始まつたの

でしょうね。それがだんだんとみせる要

素が多くなつたのでしょうか。幼稚園の

場合は体育面はないわけです。そうする

と遊戯をしてみせたり、かけっこをして

みせたり、かけっこをしてみせたりして  
いるのです。内容を考えなければいけま

機部 「運動会で何をするかということがきまるのはいつごろですか」

堀合 「九月になってからです」

機部 「それではしまってからすぐに練習が始まるのですか」

堀合 「そうです。きまらないと、この活動がでてこないですね」

機部 「九月三十日に空箱などの紙の材料が保育室においてありました。そして子どもたちが紙の材料で家のセット<sup>(注9)</sup>をつくっていました。こうした活動は九月になってからあまりみられませんでした。紙の材料は次の計画のために出されたのです。子どもたちの活動状況から必要になって出されたのですか」

堀合 「その頃になると運動会ですることができてきて、普段の生活にかえったのでしょ。子どもたちのいろいろの活動が出てきています。運動会がすむまでは大きな計画はありません」

機部 「運動会が終わって運動会の絵をかくことについて、四日が運動会で七日に運動

会の絵をかきました。普段で、かく期間に何日間か余裕があるのでしょう

が、八日には遠足がありました。あと

予定がつまつたので、七日に絵をかかないと、あとかく日がないという

状態でしたね。朝のうちは子どもたちはいつものようにそれぞれの活動をしてい

て、先生が画用紙等の準備をなさって、

ぱつ、ぱつと運動会の絵をかき始める子

どもが出てきました。いちばん多いとき

はクラスの大部分の子どもが書いており

ましたが、普段、子どもたちが絵をかい

ているときほど楽しんでいないようにみ

うけられました。もし子どもたちに運動

会の絵をかきたい気持があるのなら、も

うと、どんどんかきそなうものなのに、

あまりかいていないですね。運動会が終

わって運動会の絵をかく必要があるかどうかということと、運動会の絵の内容に

ついてはどうですか」

堀合 「課題画<sup>(注10)</sup>を何度かやってみますが、やる

つとも興味を示さないので、いいことではないとか、無理だということがわかります。こちらの気持で課題画をしなければということでおできますが、やってみて後悔します。時間をかけて一日でも二日たっても、みんながよろこんで『ぱくやる』といって子どもたちがすれば満足ですが、そうではなくて全然ふりむかれない人がいます。子どもの興味はやっているときが楽しいのであって、また前方が楽しみで、すんでしましたあと、どうこうというのはむずかしいですね。それは小学生になって教材としてかくときに、初めて意味があるのでしょう。

運動会というと運動会の旗があつてというような、おとながおしゃれたような絵しかかかないですね。いもほりの絵にしてもかけないととはいわないけれども、いやな顔をして、白紙を前において、なかなかかないですね。いろいろな経験をさせることのひとつのような気がして課題画をしますが、いろいろと考えさせら

れます」

機部「一学期に何人かの子どもたちが、高速

道路の絵をかいたことがありましたね。」

長い間子どもたちがブロクキャップや箱

積木やいすをつかって高速道路をつくる

遊び<sup>(注13)</sup>がつづいていた頃、先生が巻紙を持

つてこられ、子どもたちが高速道路の絵

をかきましたが、子どもたちはとても楽

しそうにかいていました。あの場合、先

生は全員の子どもがかかなくてはならな

いというふうにお考えにならなくていい

わけですか」

堀合「そうです。そして、表現されたものも

いいものができますね。子どもたちが遊

んでいるうちに『絵をかこう』といって

かき始めますね。そういうときには運動会

の絵が出れば、それはいいですね。なに

もみんなにかかせる必要はないですね」

機部「運動会の絵をかく、遠足の絵をかくと

いうことが大事なのではなくて、その中

にうちこんでかくというのが大事なのですね」

注1、運動会に関する記録 第66卷第12号

56頁～・第67卷第1号58頁～・第67卷第2号58頁

2号58頁～・第67卷第3号58頁～・第67

卷第5号

注2、隊列に関する記録 第67卷第2号60頁

61頁・第67卷第3号63頁～64頁・第67

卷第5号

注3、運動会のリレー

注4、リレーに関する記録

自動車リレー 第65卷第1号56頁～59頁

3組に分れてするリレー 第65卷第4号

60頁～62頁

リレーがはじまるまで 第66卷第12号56

頁～57頁

聖火リレー 第66卷第12号59頁～60頁、

62頁・第67卷第1号58頁～61頁・第67

卷第3号66頁～68頁

運動会のリレー 第67卷第2号69頁・第67

卷第3号64頁～65頁

注5 音楽リズム・表現活動に関する記録

遊戯室での音楽リズム

種まき 第64卷第6号55頁～57頁

森の精 第65卷第7号64頁～66頁

遊びの中における音楽リズム

蜂 第65卷第1号59号

バレーボール 第65卷第6号64頁～66頁

頁・第67卷第12号58頁

自動車運転の歌 第67卷第3号59頁

きゅうびいの遊戲 第66卷第12号64頁～66

頁・第67卷第1号63頁～64頁・第67卷第2号

65頁・第67卷第3号59頁

動物の行進 第66卷第12号66頁～69頁・67

卷第1号64頁～65頁・第67卷第1号71頁・67

67卷第2号65頁

注6 運動会の歌の指導

きゅうびいの歌 第66卷第12号64頁

自動車運転の歌 第67卷第1号63頁～

67卷第2号63頁～

音楽行進 第67卷第2号60頁・64頁

注7 家のセット 第67卷第3号69頁～71頁

号63頁

注8 幼稚園だけにする運動会 第64卷第6

卷第3号64頁～65頁

注9 運動会の歌 第67卷第5号

注10 運動会の絵 第67卷第5号

注11 課題画

雨ふりの絵 第65卷第4号62頁～64頁

運動会の絵 第67卷第5号

注12 まき紙に高速道路の絵をかく

第65卷第1号61頁～63頁

注13 高速道路をつくる 第64卷第2号56頁

58頁・第64卷第3号56頁